

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4期連続トップ当選

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



国際工芸美術館建設の難航と今後の動向

無所属会派は全員が工芸館建設に異を唱える

かねてから石坂市長が推進する(仮称)町田市立国際工芸美術館の設計契約が難航し、ようやく1社が応札したのですが、ここに来て辞退ということになったと言うものです。そもそも、入札条件(金額制限を事実上撤廃)を緩めるだけ緩めて、ようやく応札してきたものが1社しかなかった、町田市はそれに便乗し工芸館建設を推進しようとしたが、契約締結した相手の方が辞退してきたという何とも恥ずかしい状況になったものです。町田市や市長は困っているかも知れませんが、市民は何も困ることは無いと考えています。

その理由は、5期目の市長選挙に臨んだ公約には、工芸美術館の建設は全く入っていないのになぜその早期建設にこだわるのか、この点を市長の当選後の本会議で私が指摘し、市長を狼狽させた案件でした。その後、設計入札が何度不調になっても、今の任期中に工事着手に入ることにこだわっているものです。落札者が契約を断ってきたことで、当然、令和6年度の予算執行は無くなり、その整備事業の廃止と言う事態になりましたが、市長はさらに、令和7年度に事業を再起させる考えです。本来、明白に建設断念をするか、改めて、来年の市長選挙の公約に掲げて市民に信を問うべき重大な問題だと考えています。



完全な民間資金で建設した好評の下瀬美術館

第1定例会の一般質問項目とその着眼点

第1定例会の一般質問期間は会期の後半の5日間に設定されており、吉田つとむの質問日は、抽選でその期間の初日3月12日(水)の6番目になっています。今回通告した一般質問は、以下の内容です。



表題1 (仮称)国際工芸美術館建設の哲学について

- (1) 展示収蔵品と町田市の文化について(歴史・伝統、芸術家、産業、国際、及び民間事業との関係)
- (2) 建築物の美学について(下瀬美術館などの視察をしての考え方)*多額の税金を使って、数十億円の建築物を建て、展示することに値するかという問題を、工芸品卸販売を職業にしていた立場から、改めて問います。

表題2 町田市のデジタル教科書の取組は

- (1) 教科書の紙とデジタルの選択制についての町田市の考え方について。
- (2) デジタル教科書と町田市が配布するタブレット端末機について*国はそのいずれかを選択できる方針を出しているが、町田市はどうするか。

表題3 たま未来産業フェアと町田市内企業の取組について

- (1) 町田市の出展業者の変化を見て*出展業者にどのようなメリットを提供できるかを問う。

表題4 電子投票選挙に関する考え方について

- (1) 大阪府四條畷市の電子投票選挙が無事に終了したことについて*四條畷市の電子投票選挙が無事に済み、次のステップを問う。

*四條畷市の現地視察で大阪在住の元研修生が道案内

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう!

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員3名で構成し、明快な議論を提起します。

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第55期生が参加研修中

インターン体験記③-1 森田瑛斗

石破総理の参議院本会議基調報告を傍聴

2/12 参議院本会議場にて行われた石破総理の米国からの帰朝報告とそれに対する各会派の質疑を実際に傍聴することが出来たので報告させていただきます。トランプ大統領との日米首脳会談に伴い、野党側の要請があり開催に至ったとのことで、トランプ大統領への関心の高さがうかがえました。議長席の横には通常総理と大臣が座っていますが、総理以外の大臣はおらず空席が目立ちました。今回の総理の外交成果については野党からも一定の評価を得られている印象でした。各会派とも話題としていたテーマはおおむね共通しており、日米同盟、関税、US スチール、北朝鮮の拉致問題、海外援助政策などについて質疑がなされました。

特にキーワードとして印象的だったのが「自由で開かれたインド太平洋」という言葉で、総理の答弁の中でも複数回登場していました。「自由で開かれたインド太平洋」とはアジア、アフリカの2大陸を太平洋とインド洋の2大洋を通じて連結性を向上させることで国際社会の安定と繁栄を図ろうとする日本の外交方針です。日本は海上交易に依存していることも踏まえるとインド洋太平洋地域における安定を保つことは非常に大切なのだと思います。米中とどのような関係を築いていくのか今後の外交戦略に注目していきたいと思えます。



東京大学医学部6年生 森田瑛斗(第55期)

インターン体験記③-2 森田瑛斗

医師で衆議院議員の阿部知子議員と面談の場

議員に政治家になった経緯を伺ったところ、医師として働いているときから社会に対して活動をしてきたため、政治家になったという強い意識はないというお返事をいただきました。

またガザでの戦争についての話題にも及び、ガザ地区の傷病者を受け入れるメディカルエバキュエーション(医療避難)を行うことの必要性を語っておられました。ガザでは病院の多くが攻撃を受け、きれいな水や電気へのアクセスや医療物資の供給も不足しており、被害は停戦となった今も拡大していると考えられ、迅速に国際社会で協力して対応していく必要があると感じます。



また地方の活性化において、「産業」「教育」「医療」の3つが欠かせないというご指摘をされました。自分自身も大学に通う中で、研究をサポートする環境が不十分であり、多くの先生や学生が苦勞をしているのを感じます。「教授の仕事は研究ではなく、予算を獲得することだ」などということを行っている人もいました。現在の仕組みでは“有望な”研究にのみ予算が割り当てられるようになっており、未知の分野に挑戦することの出来る体制が整っていません。アカデミアのレベルが一度下がってしまうと、立て直すことは容易なことではありません。長い目でアカデミアを国で支えていくことが欠かせないと感じます。また地方の大学を中心に新たな研究が進むことで、新たな産業創出の機会や地域の教育水準の向上につながり、地方創生につながっていくのではないかと考えます。東京大学医学部6年生 森田瑛斗 記

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年2月末までに111名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎次回のインターンシップは、2025年夏季募集で2025年3月より広報開始します。